

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 25 年度

事業所番号	2770104848		
法人名	社会福祉法人 南の風		
事業所名	グループホームアル・ソーレ		
所在地	大阪府堺市堺区甲斐町西2丁1番15号		
自己評価作成日	平成 26年 3月 1日	評価結果市町村受理日	平成 26年 4月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2770104848-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 26年 3月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝いいたします」と理念にもあるように、その人らしさとはどういうことなのかというとても難しいテーマに対し、それぞれが考え、利用者を理解する努力を日々心がけています。生活の場では共に暮らすを意識し、又複合施設ならではの特徴をうまく活用した、併設しているからこそ協力し提供できるサービスにも積極的に取り組んでいます。利用者や家族の安心と楽しみを今後も継続して提供させていただくことを目標にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立後13年、地域で活躍している社会福祉法人が運営する2ユニットのグループホームです。当ホームは、特別養護老人ホームやデイサービスセンター等と併設している7階建て複合施設の5、6階にあります。「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝いいたします」を理念として、利用者が地域との繋がりを持ちながら自分らしく暮らせるように支援しています。玄関やエレベーター等に鍵をかけないケアを実践しており、利用者一人ひとりが自由に暮らせるように支援しています。職員はやさしく、利用者を人生の先輩として尊重し、「共に生きる」家族のような存在を目指しています。「看取りに関する指針」を作成し、看取り介護の考え方や具体的な支援内容、協力医療機関との連携体制等を明確にしています。24時間医療連携支援を行い、医師・看護師・管理栄養士・職員等でチームを組んで支援体制を整えています。災害対策では安全確保を重点課題として、消防署や地域組織と連携しながら避難訓練等を実施しています。職員と利用者家族との連携も良く、法人のバックアップもあることから、今後も家庭的で安定したサービス提供が期待できるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝いいたします」を理念に掲げ、地域の資源を活用しながら、地域に支えていただき、又、地域に貢献できるような取り組みを他サービスと協力して取り組んでいます。	ホームは、「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝いいたします」を理念としています。職員は、利用者一人ひとりにおける「その人らしさ」について、共に生活をする中で常に思い、考え、利用者があらゆる場面において自己決定をし、日々充実した生活を送ることができるよう、家族や地域と一体になり、支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のふれあい喫茶への参加や祭りやイベント・地域掃除への参加。又、逆にホーム行事への招待やボランティアとして、お手伝いに来ていただけるなど、良い関係でご協力いただいています。近所の保育園との交流も開始し、公園で待ち合わせたり、Xmas など合同イベントも行っています。	職員は、利用者と共に、地域のふれあい喫茶やふとん太鼓、納涼祭等の地域行事へ積極的に参加し、地域の理解と協力をさらに深め、馴染みの関係が継続できるよう、働きかけています。近隣の保育園からは、「じっくり交流する企画と軽くできる交流」について提案があり、合同でクリスマス会の開催や、公園で園児と自然に交流できるよう待ち合わせをしています。また、日本舞踊等のボランティア訪問や相撲部屋より力士の訪問があり、利用者と家族、職員と一緒に楽しむ機会となりました。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域包括と協力し、認知症サポーター養成講座を開催、又、堺市・堺区のグループホーム連絡会に所属し、地域包括や保健センターなどと協力した認知症パネル展・講習会などの啓発活動、地域包括主催で、家族会への参加協力、にも取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や地域包括との現状報告、取り組みや課題などでのアドバイスをいただくなど、参考にさせていただいています。	運営推進会議の開催規程を作成し、2か月に1回定期開催しています。構成メンバーは、利用者・家族・地域住民代表・地域包括支援センター職員が参加しています。会議では、介護経験がある参加者からの情報提供や助言、認知症に関するDVDの提供等、参加者が積極的かつ自由に発言できる場となっており、出された助言や提案等を今後のサービス向上に活かしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や連絡会などでの相談、情報交換をするなど、又、地域の見守りネットにも協力しています。	ホームは、市や区の担当者と連絡や相談、情報交換を行い、協力関係を築くよう努めています。今後、苦情や事故が発生した場合に備えて、報告をする体制を整えています。また、ホームは市グループホーム連絡会や区グループホーム連絡会に所属し、その一員として啓発活動に努めています。認知症の理解をより地域に発信する活動の一環として、地域包括支援センター等と協力し、認知症パネル展への参加や近隣の小学校へ訪問し、高学年を対象とした劇をする等、積極的に取り組んでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の勉強会を通じて、知識と方針など含めた意識統一を図り、いかに利用者が穏やかに安定した生活を送っていただけるかを考え、職員一人一人が自覚を持ち取り組んでいます。又、家族の思いに耳を傾けることができるよう、コミュニケーションの機会を大切にしています。	ホームは、身体的拘束等の排除マニュアルを整備し、「身体拘束を行わない」方針を職員に周知徹底しています。フロア玄関は開錠しており、「鍵をかけない支援」を行っています。職員は、利用者が外出しそうな様子を確認した場合には、さりげなく声かけを行い、付き添って外出する等、利用者のペースを大切に、柔軟な支援を行っています。また運営会議では、「離設」をテーマに、職員は「命」や「見守り支援」について話し合い、見守り支援の強化が必要であると、職員間で意識統一を図りました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の勉強会を通じて、知識を深め、いかに利用者が穏やかに安定した生活を送っていただけるかを考え、各職員が自覚を持ち取り組んでいます。又、家族の思いが汲み取れるよう、気軽に相談しやすい雰囲気を心がけています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在数名の利用者がそれぞれのニーズで成年後見制度を利用されています。家族からの相談なども含め、NPO 団体からの協力をいただき、その都度指導、助言をいただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項・契約書などの書類は、見学时に事前にお渡しし、当日にも再度説明と質問を受け付け、理解と協力を得ています。サービス利用に対して、家族・利用者の不安を少しでも軽減できるよう、ゆっくりとお話を聞かせていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のかかわりの中で、気軽に相談していただけるよう、面会時には近況報告を兼ねてお声掛けをさせていただくなど話しやすい、聞きやすい環境に心掛けています。	家族の来訪時には、職員から声かけをして利用者の状況を報告し、家族の意向をくみ取るようにしています。毎月1回職員が手書きの便りを家族等に送付し、生活状況や健康状態等を報告しています。運営推進会議のメンバーとして利用者家族が出席し、話題提供等活発に発言しています。家族の意見や提言については速やかに共有して、ホーム運営に反映するよう取り組んでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のフロア会議を行う際は、事前に議題を集めておき、時間を有効活用できるように心掛けています。又、申し送りの場を活用し、急な事態にも相談、対応できるように努めています。それらを運営会議にも反映させています。	管理者は職員と日常的に意見交換を行い、要望を聴くなど、職員が意見を出しやすい環境づくりをしています。月1回のフロア会議では、短時間でも十分な討議が行えるよう、事前に議題を確認して会議に臨んでいます。また、申し送り時に、急な検討事項があれば相談するなど、臨機応変に対応しています。職員間で合意を得た事項については速やかにホーム運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験や能力に合わせた研修への参加。講師を招いての勉強会や、施設内又、グループ施設間での事例発表会など、職員のニーズや必要性など内容に応じたものを取り入れています。職員面談などを通じて、自己評価も含めたコミュニケーションを図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に合わせた研修の参加と、施設内の勉強会委員を中心に、計画を立て、スキルアップに取り組んでいます。又、資格取得に対して、講習会を開くなど、それぞれの意欲にサポートできるよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の活動や、大阪認知症高齢者グループホーム協議会への加入などで、他施設との情報交換や取り組みを参考にさせていただきながら、自施設のサービス向上に役立っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に対しての理解、納得から利用者・家族の不安や疑問に対してゆっくりと話し合いの場を設け、家族にできる限りの協力で寄り添っていただくようお願いしています。必要に応じてご家族にしばらく泊り込んでいただく提案など少しでも安心して過ごしていただけるように状況に応じた援助を行う準備をします。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対しての理解、納得から利用者・家族の不安や疑問に対してゆっくりと話し合いの場を設け、家族にできる限りの協力で寄り添っていただくようお願いしています。必要に応じた臨機応変な対応で少しでも安心して過ごしていただけるように状況に応じた援助を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの把握に努め、かかりつけの病院やドクターなど、今までのなじみの関係を大切にしていいただけるように家族の協力をいただきながら継続してお手伝いができるように心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすということを常に心がけ、日々の関わりの中で自己選択・決定の機会を多く持つように心掛け、興味を持っていいただけるような取り組みに心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も共に暮らすというかわりの中で、利用者に対しての相談や認知症に対してともに参加できる講習会への誘いなどに取り組んでいます。又、ホームの余暇活動などの取り組みや行事に対してボランティア協力をいただくなど、家族からもお手伝いできることがあればお願いしています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院、好きなお店、行きつけのレストランなど家族の協力もいただきながらお手伝いできるように努めています。	職員は、かかりつけの病院、好きなお店、行きつけのレストランなど、家族の協力も得て、利用者が馴染みの場所に出かけられるように支援しています。また、利用者の友人や知人が来訪した際は、ゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。希望があれば利用者が手紙を書いたり、電話をかけたりする際の支援もしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの認知症状の中で、集団生活のストレスは所々で考えられるものの、活動などを通じて自然なかかわりが持てるように工夫しながら取り組んでいます。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係施設、病院など、サービスが移っても面会に訪問させていただいています。退所された利用者のご家族も、お手紙で近況を知らせてくださる方や、大きな行事には毎年手伝いに来て下さるなど、良い関係でお付き合いさせていただいています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの中でも、生活歴や環境、なじみを重要視し、日々の関わりの中での気づきや、利用者の思いを大切に、家族・職員間での情報の共有に努めています。	利用者のフェイスシートを作成し、利用者のこれまでの生活歴や家族構成を分かりやすく記載して職員間で共有し、利用者の背景を理解した上で支援をしています。職員は常に利用者の意向を尊重した対応を心がけています。利用者が言葉で表現しにくい場合には表情で確認し、家族の意向も確認しながら、利用者本位に対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントの一部をお渡しし、なじみや好みなど、家族間で相談しながら記入していただけるようにして情報をいただいています。その際にはなぜその情報が必要なのか等も説明を加えるように心掛け、理解を求めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中での思いや変化に対して気づきを大切に、記録に残し、情報を共有しながら、利用者の状態把握に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前の情報収集をフロア会議の中で意見をまとめ、家族にもその都度確認し、思いや意向を汲み取りながら計画作成に反映させるよう努めています。	介護計画書は、利用者や家族の意向を確認し、職員の意見や提案を事前に把握してフロア会議で検討しています。介護計画書は毎月モニタリングを行い、6ヵ月ごとに見直しを行っています。必要な場合には家族と話し合い、医師や看護師、栄養士等と相談しながら利用者本位の計画書を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中でみられる変化に注意し、言動、行動、体調の変化など、皆で記録に残し、共有しながら必要な対応が素早くできるように心掛けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設内の協力と、関係施設などとも協力体制ができており、必要に応じて柔軟な協力を受けることが出来ています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のニーズに合わせて、近くの商店やお寺、なじみの花屋さんなど、出かけています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の定期の受診、緊急時の対応、その他必要に応じた医療を受けるにあたっての相談と確認を行い、家族の協力のもと、かかりつけ医との連携も大切にしています。	基本的に、利用者や家族の希望に沿った医療機関で、適切な医療が受けられるように支援しています。利用者・家族はホーム提携医師をかかりつけ医としており、定期的な往診を受けています。その他専門の科については、利用者がこれまでかかっていた医療機関への受診を支援しています。受診については家族が付き添っていますが、家族の都合が悪い場合等は、職員が付き添っています。ホームでは24時間、365日の医療連携支援を受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部署と兼務の看護師が定期と随時に訪問してくれ、必要に応じた処置や確認を医師との連携のもと行っており、職員も安心して相談できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的な面会と、看護師や医師に状態の確認を行い、退院に向けての助言や指導などもいただきながら早期に退院できるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の看取りに関する指針をもとに説明し、同意をいただき、実際に対応が必要になったときは、家族、医師、看護師、栄養士の連携のもと、援助の方向性を確認しつつ、できる限りの必要な援助に努めています。又、利用者にとって必要な支援が受けられる環境も視野に入れ、より良い方向に支援できるよう努めています。	「看取りに関する指針」を作成し、看取り介護の考え方や具体的な支援内容、協力医療機関との連携体制等を明記しています。ホームでは入居時に指針を説明し、利用者・家族の意向を確認しています。重度化した場合には再度、利用者・家族の意向を確認し、医師・看護師・管理栄養士・職員でチームを組んで支援体制を整えています。ホームでは、過去に終末期支援を行った経験があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や講習会で心肺蘇生法や AED の使用方法を学び、ホーム内での緊急マニュアルをその都度見直し、確認を行い、実際の対応に備えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で災害対策委員会を設置しており、マニュアルの作成と見直し、様々なパターンを想定した年2回の消防立会いの避難訓練、南海地震を想定した備蓄などの準備、停電時の確認など、世間の情報を確認しながらその都度考えられる状況に応じた備えができるように心掛けています。	グループホームを含む、施設全体で災害対策を行っており、消防署と連携して年2回、避難訓練を実施しています。最近では南海トラフ地震を想定した対策を強化しており、施設全体で災害対策委員会を開催し、備蓄や停電時の対応、迅速な情報収集のあり方、避難場所の再確認等も進めています。近くの保育園児の避難場所として、受け入れ準備をする等、地域との連携を強化しています。ホームでは、水や非常食の備蓄等を充足しています。	職員は災害対策に関するマニュアルを見直し、より具体的な内容を追加して訓練を実施するなど、災害に対しての備えを強化する予定です。また、近隣との連携を強め、近くにある保育園児の避難場所としても、受け入れ体制等を再整備する予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴など、それぞれの状態に配慮しながら、1人1人個別に対応しています。サービスマナー・個人情報保護などの勉強会も取り入れ、意識の統一と確認に努めています。	利用者の状況に合わせて、分かりやすく丁寧な対応をしています。食事や入浴、排泄支援等については、一人ひとりのペースを尊重した対応をしています。サービスマナーや個人情報保護等についての勉強会を行い、職員の意識向上に取り組んでいます。職員には、入職時に個人情報保護についての誓約書を交わしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	ティータイムやおやつの時間にはメニューを用意し、好みの飲み物を選んでいただいています。おやつバイキングの実施や、食事においても、気分や状態に対応できるように幅を利かせ、入浴は好きな時に入れるように準備しています。日常生活の中で自己選択・決定の場を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の予定を固めるのではなく、天候や気温、利用者の調子や気分に合わせて支援できるように、臨機応変ということを常に大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身支度援助だけでなく、お出かけや行事の際には違った気分に参加できるように化粧するなど、おしゃれを楽しんでいただいています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好の調査を行い、献立によっては、別メニューの提供や、状態に応じた軟菜・一口・刻み・とろみ・ソフトなどの提供も行っています。メニューによっては一緒に調理を楽しみ、利用者の意欲に応じて家事動作も参加されています。	同法人厨房で調理した食事を利用者と共に盛り付けたり、配膳したりしています。利用者の好みにより、別メニューを提供することもあります。利用者と材料を買いに出かけ、クレープやホットケーキ等のおやつ作りをしたり、給食レクリエーションでは、モダン焼き等を作ったりして楽しんでいます。職員は利用者と同じ食事を味わいながら、食事介助をしたり、話題を提供したりして楽しく食事ができるようにしています。利用者の状態に応じて、刻み食やとろみ食等も用意しています。回転すし等の外食に出かけたり、夏にはバーベキューを楽しんだりしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がたてた献立のもと、摂取量の確認と、嗜好の確認を行いながら、管理栄養士・看護師・医師との連携のもと、アドバイスや指示をいただいています。水分補給には好みの物や、状態に応じて用意工夫をします		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシやカーゼなどの道具を使い分け、利用者に応じた援助を行っています。希望者は毎週金曜日の歯科往診で口腔ケアとチェックを行い必要に応じて受診しアドバイスや治療を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、必要な排泄用具で援助を行い、状況を記録しています。可能な限り、トイレに座るということを大切に援助しています。	職員は自立支援を心がけ、可能な限りトイレでの排泄を支援しています。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見て声かけやトイレ誘導を行い、おむつ類に頼らない支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状況把握に努め、管理栄養士・看護師・医師との連携のもと、アドバイスや指示をいただき、乳製品やオリゴ糖の活用などで排泄を促し、悪化しないように早期対応に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるように準備があり、毎日入っている方もいます。又、毎朝、朝食後の一番風呂でなければという希望もあり、現状では問題ないため、対応させていただくなど、それぞれの生活パターンに応じて可能な限り援助しています。	毎日入浴を楽しめるよう、入浴準備をしています。利用者は毎日入浴したり、2～3日に1回入浴したり、一人ひとりの希望に添った入浴支援を受けています。沐浴剤で温泉気分を味わえるようにし、季節にはゆず湯や菖蒲湯を用意して利用者に喜ばれています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	自由に過ごしていただいています。 夜間眠れない時は、共有スペース でお茶やおしゃべりをして過ご したり、日中に関しても状態に 合わせて臥床時間を作るなど それぞれのペースで過ごして いただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	医療用ファイルにそれぞれの服 薬内容の一覧と、注意事項を まとめており、指示や変更に対 しては申し送りです。その都 度確認しています。服薬漏れの ないよう、チェック表で確認 し、服薬に関して変化や問題 が発生した時には看護師・医 師に確認し早期対応ができる ように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、 嗜好品、楽しみごと、気分転 換等の支援をしている	習字・カラオケ・詩吟の時間 を月一回予定しており、それ ぞれ好みに応じて参加して いただいています。その他秋 の作品展に向けて、一年かけ て様々な作品に取り組み、皆 さんに見ていただくことを 張り合いとしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	長距離、長時間の外出がなかなか困難になりつつある現状で、家族や地域の方の情報をいただきながら、近くの公園や施設、イベントを利用し、外出気分を楽しんでいます。	買物や散歩に出かけたり、近くにある公園で保育園児と交流したり、地域のふれあい喫茶店でお茶を楽しんだりしています。また、同法人特養のロビーで喫茶コーナーを設け、地域の人々と交流したりしています。外出レクリエーションでは、ばら園や水族館、動物園等へ出かけて楽しみ、外食では回転すし等に出かけて楽しんでいます。外出を希望されないため、一部外出の回数が少ない利用者もおられます。	外出を希望されない利用者にも、週1回程度の外出ができるよう、取り組むことが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族と相談しながら、自己管理、見守りの管理など状態に応じた管理を行っています。買い物時には、支払動作を共に行うなど心掛け、援助しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	一階の公衆電話は自由に使っています。その都度希望に必要なお手伝いをしています。携帯電話を持っている利用者もいます。遠方の親せきからの手紙を代筆したり写真を添えたりしながらお返しし、関係を大切にしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常の掃除に加え、毎週木曜日には衛生日と設定し、キッチン周りの消毒や、ゴミ箱などの洗浄の日にあて、清潔を保つよう心掛けています。光・音・温度・湿度の配慮にも心がけ、居心地の良い環境作りに努めています。	食堂兼居間には、見やすいカレンダーや時計、利用者の写真、作品等を掲示し、金魚を飼ったりして楽しめるようにしています。また、廊下など数カ所にソファや椅子を置き、利用者がゆっくりとくつろげる場所にしています。大きく見やすいテレビを置き、利用者が見やすいように席の配置を工夫しています。ベランダは広く、草花を植え、家庭菜園を楽しめるようにしています。災害時には、利用者がベランダから避難できるように安全対策をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内には所々に椅子を配置し、居室以外にも落ち着く場所を見つけてもらえるようにしています。また、談話室や七階フロアにもゆとりの空間があり、面会者と気兼ねなくすごしていただけるように活用されています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れたなじみのものを持参していただき、なるべく住み慣れた環境を再現していただけるよう協力をお願いしています。徐々に必要なものを取り入れながら安心して過ごせるお部屋作りを一緒に行っています。	居室は和室と洋室があり、景觀に恵まれ、清潔で明るく個性のある部屋になっています。利用者は冷蔵庫、茶道具、テレビ、机、椅子、タンス、ドレッサー、靴箱やシルバーカー、ぬいぐるみ、写真など、多くの家具類を持ち込み、使いやすく工夫しています。室内で金魚を飼っている利用者や、昔ながらのほうきを置いて室内の掃除をしている利用者もいます。職員は一人ひとり意向に添った支援を行い、利用者が安心して暮らせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の変化に伴い、理解の状態に応じてそれぞれのスイッチに説明書きを加えるなど、工夫すれば自分でできることに対しても心がけています。段差を上ったの居室には手すりを付け加え、転落防止に家具を置きました。		